



いわした たつや
岩下 竜也 議員
IWASHITA Tatsuya

Q. 一括回収移行への周知は

A. さまざまな機会を通じて説明

私たちの日常生活において、ごみ問題は避けて通れない課題である。不法投棄、カラスによる被害、資源回収など、多くの問題が存在している。これらの問題は、私たちの生活環境だけでなく、地球環境にも大きな影響を与えている。令和5年の12月議会において「ごみ・資源の分け方や排出方法に関する議論を行った。当局からは、新たに資源袋を作成し、プラスチック類の一括回収を令和7年4月から開始予定との回答であった。また、収集についても、資源の一部を路線収集する予定とのことであった。一括回収開始まで、残り10カ月足らずとなっており、新たに作成する資源袋を活用し、資源の一部を路線収集するための準備を進めているところだと思つ。今回の大規模な変更に伴い、私は、町民への周知を「最優先事項」として位置づけている。

特に、異物の混入による、収集車や処理場での火災リスクは、私の深刻な懸念事項である。プラスチック類が発火した際には消火が困難であり、大規模な事故につながる可能性がある。

プラスチック資源の一括回収に移行することの目的についての見解は。また町民への周知はどのように案内するのか具体的に問う。

生活福祉部長
家庭ごみの排出量が、皆さまの分別のご協力により、一定の減量化は進んでいるものの、県内の自治体と比較しても多く、ごみの減量化が課題となっている。本町の家庭ごみの排出量の現状を踏まえ、プラスチック資源の一括回収を行うことで、これまで焼却処分していた「プラスチック製品」をリサイクルし、更なるごみの減量化に繋げていくこと、また、プラスチック資源をまとめてお出しいただくことで、ごみの排出に係る町民の負担軽減を図ることを目的に実施するものである。周知については、27地区すべての地区へ説明に伺うとともに、「広報とよやま」をはじめ、ホームページやSNSなども活用して案内を行っていく。また、環境フェスティバルなどのイベントの際にも啓発していきたいと考えている。

「広報とよやま」ホームページやSNSを活用した案内について、これらのメディアを通じてどのような情報を提供する予定なのか。また、これらの情報提供によって、皆さまの理解を深めるための具体的な方法は考えているのか。また、環境フェスティバルなどのイベントでの案内についても、どのような形で情報を提供し、町民の参加を促す計画があるのか。

生活福祉部長
特集記事や新たに作成するごみ・資源の品目別早見表の掲載、イラスト入りの分別方法などを用いて分かりやすく案内していく。

なお、地区の説明会を始め、環境フェスティバルや健康・福祉フェスティバルなどのイベント、老人クラブやサロンなど、さまざまな機会を通じて説明していく。また、環境フェスティバルのクイズラリーなどで、プラスチック資源の分別に関するクイズを盛り込み、来場された皆さまに楽しみながら関心を高めていただけるよう工夫し、ご理解いただけるよう努めていく。

